



鳥取市教育センターだより

第4号 平成30年12月17日発行

〒680-0053
鳥取市寺町150番地
TEL 0857-36-6060
FAX 0857-26-3878
E-mail
kyo-center@city.tottori.lg.jp

新年は「三つの『り』！」

所長 東田 重高

平成30年も残すところ二週間あまりとなりました。この一年、「すべての子どもが しあわせになるために」、子どもたちの夢や希望の実現に向けて教育活動にご尽力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



鳥取市教育センターでは、「つなぐ・つながる」をキーワードとして、4月より始まっている中核市教職員研修、English world キャラバン、ひらがな音読支援や教育（就学）相談等による特別支援教育の推進、適応指導教室「すなはま」の運営等に取り組んできました。これらの業務は、先生方や関係の皆様のお力添えがあってこそ実施できており、所員一同、感謝しております。

さて、私たちの身の回りには、「三つ」のつく言葉や三つで一組を成す言葉（例えば、「知徳体」等）が多く見られます。「三つの目標」「三つのポイント」などのように、「三つの〇〇」と表現する言葉は、学校の経営理念や方針等でも多く用いられています。今回、「つ」のつく言葉に注目して、いくつかの例を紹介します。

○思いやりの心を育むために心がけたい三つの「つ」 ①あいさつ ②しんせつ ③あとしまつ

（あとしまつ…自分の行いに最後まで責任を持ち、きちんとあとしまつをする）

○三つの「つ」を活用した授業展開 ①つかむ（見通す） ②追及する ③使ってみる（振り返る）

○学校運営を進めるための三つの柱 ①つながる ②つたえる ③つづける

（他の例…つみあげる、つくる、つどう 等）

今後に向けてこれらのことも参考にさせていただきますと幸いです。

この一年いろいろなことがあったと思いますが、一つ一つ心の中で整理をすることで「すっきり！」し、ほかほかとあたたかい「ほっこり！」した気持ちで、「にっこり！」笑顔の新年を迎えたいものです。



来年も引き続き、ご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。

中堅教諭等資質向上研修では、コラボ研修によって中堅教諭と各世代間の連携協働意識が高まり、校内OJTが推進され、学校の組織力が高まることを期待しています。

また、鳥取市独自のプログラムとして、中堅教諭が自分自身で交渉、企画して保育体験や公民館活動に参画したり、校内研修等で指導助言を行ったりする「企画選択研修」を設けています。

校外研修と学校の実践をつなぐ取組や校内OJT、企画選択研修の実施状況について紹介します。

校内OJTの取組

「校外研修資料を回覧し、研修内容を伝達」

- 校外研修後に講師資料を必ず職員に回覧。全職員が資料を読むことができた。時間があれば、終礼でも研修内容を紹介した。
- 中堅教諭が中心となって、Q Uの分析やアセスメントシートの作成についての職員研修を実施。研修で学んだピア・サポートやSELE-8Sの手法も取り入れ、子どもへの声のかけ方や保護者への関わり方について教職員の理解を深めた。

<校長先生の声>

中堅教諭が提案したことが他教諭の子どもや保護者への対応に活かされた。教育センター作成の「研修のまとめ」が大変参考になる。今後も研修の情報共有に役立てたい。

「中堅教諭が講師・初任者の授業づくり・学級づくりを指導・支援」

- 中堅教諭が日常的に授業を公開し、講師や初任者が空き時間に参観。（初任研の示範授業も兼ねる）授業の指導案や教材・教具を講師や初任者に提供した。
- 講師や初任者の授業づくりに協力。学習指導要領の読み解き、授業構想、指導案作成を助言。発問や子どもへの話し方、板書の仕方等を指導した。

<中堅教諭の声>

講師や初任者の授業を見て、感じた課題をいろいろ伝え、それが自分自身の授業を振り返ることにつながった。自分にとっても授業づくりを見つめ直すよい機会となった。

企画選択研修の取組

「自主防災会の協力のもと総合的な学習の時間を展開」（地域貢献体験）

- 中堅教諭が自主防災会に参加し、防災会、消防団の方々と一緒に活動することで関係を築き、子どもたちの学習に快く協力してもらうことができた。
- 総合的な学習の時間に地域の防災教育をテーマに学習に取組み、子どもたちが、調査や聞き取りをもとに防災マップを制作した。子どもたち一人一人が地域の防災のために何ができるか考える活動へと発展させている。

<中堅教諭の声>

防災会の方の願いや思いを防災マップ作りに活かした。子どもたちの地域への愛着や、地域行事に関わろうとする意欲を高めることができた。

「校内授業研究会で先輩教師の公開授業への指導助言」（指導助言体験）

- 中堅教諭が先輩教師（エキスパート教員）の公開授業で指導助言を行った。
- 公開授業の前の授業も事前に参観。短時間で指導助言できるように、話す内容を厳選して準備した。

<校長の声>

<中堅教諭の声>

エキスパート教員の授業づくりに学び、教師としての在り方についても学べるよい機会と考え、エキスパート教員の公開授業の指導助言を設定した。

先輩教師に指導助言するため、事前にしっかり勉強して、準備も大変ではあったが、学びも大きかった。

「保育体験で保育士と一緒に活動」（キャリア体験）

- 朝の登園指導や運動・水泳指導、読み聞かせ、給食指導等。
- 園長、保育士と園児や家庭・地域の状況について情報交換、協議。

<中堅教諭の声>

教室では、どこに何を置けばよいのか分かりやすいように園児の持ち物の置場所が明示しており、教室環境が整然と整えられていた。環境整備が子どもの心を落ち着かせることを再認識できた。園長先生から地域の実態について説明を受け、地域理解を深めることができた、家庭教育の大切さを再認識した。



園児と一緒に給食

特別支援教育係

「ことばの発達」に関する講演会



国立成育医療研究センター
副院長 小枝達也氏

10月27日（土）に、国立成育医療研究センター 副院長 小枝達也氏をお招きし、「ことばに親しむ土壌をつくる～学習やコミュニケーションの基盤となることばの力を育む」について御講演いただきました。143名の参加で、会場は満席となりました。

- 言語発達の基礎知識…ことばの力がどのように育っていくのか
- 言語環境を整える…家族で読書 マンガでも良い読み聞かせの大切さ 言葉遊び

小学6年生の時点では、子どもの学力は親の収入や学歴が関係するのではなく、保護者が本をよく読むこと、子どもの読書量が関係しているそうです。さらに、子どもの漢字の読字や語彙力とも関係しているそうです。また、それぞれの立場で子どもとどのように関わり、豊かな語彙力を育てていけばよいか、具体的な手立てを学ぶことができました。読み聞かせや音読支援の取り組みの大切さについても改めて理解しました。

参加者の感想より

- ・言葉の発達について詳しく教えていただき、発達のポイントについて理解することができました。伝え方、刺激を与えるだけではなく、反応も大切にし、子どもの思いや伝えたい気持ちを大切にしていきたいと思えます。
- ・絵本、本のある環境づくり、読み聞かせの大切さ、早期発見・早期支援の大切さを感じました。
- ・1年生の担任をしていて、T式ひらがな音読支援がどのように大事であるのか、またそれで読めようになることが、いかに子どもを救うことになるのか、とてもよく理解できました。

T式ひらがな音読支援も大詰めを迎えています！

平成26年度より、鳥取市全小学校で取り組んでいる「T式ひらがな音読支援」ですが、過去担任された1年・2年の先生方から、「伸び悩んでいたのに、12月・1月になって、『あれ？すらすら読めてる！』とびっくりした」との声をたくさんいただきました。このあたりが、読みの“正確さ”と“流暢さ”の最も伸びる時期のようです。

右表は、過去5年間の第1回音読確認の結果です。要支援率が右肩上がりに高くなっています。支援が必要な児童が増えていることを感じます。

平成28年度より、第3回音読確認は、第2回要支援児童のみとしておりましたが、まとまりを捉える力をみるために全員参加希望校を募集しましたところ、16校から応募がありました。御協力ありがとうございます。

第1回（直音）確認結果 年次比較					
	H26	H27	H28	H29	H30
実施総数	1,692	1,588	1,573	1,529	1,661
要支援者	147	146	150	168	218
要支援率	8.7%	9.2%	9.5%	11.0%	13.1%

<子どもの語彙を育てる言葉遊び紹介>

「〇〇なものなんだ！」

T：「なあんだ、なんだ。まるいものなんだ。」

※みんなが自分のひざを軽くたたいて拍子をとる。

C1：「まあるいもの：タイヤ」

全員：「なあんだ、なんだ。まあるいものなんだ。」…続く

題材例：長いもの・甘いもの・赤いもの・とがったもの…



ある方向から見ると「まる」に見えるのもOK。「えー？」などの声があがった時は、「どこから見るとまるに見えるかなあ」と投げかけて、答えた児童の視点をみんなで共有すると楽しい。

“低学年の今！まずはひらがなを**正確に**、**流暢に**読める力を！”と願う先生方の熱意が、多くの児童の学びを支えています。今後も引き続きよろしくお願いたします。

